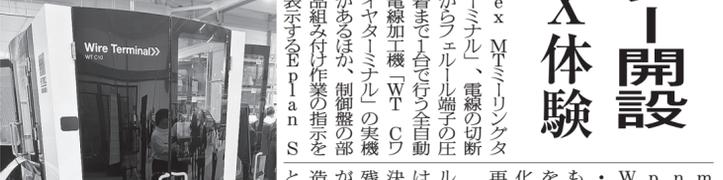


リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...

リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...



リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...

リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...

リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...

リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...

リタルは、神奈川県足柄上郡に、エンドユーザや制御エンジニアが...

三菱電機 名古屋製作所 設立100周年



1924年に三軒木製作所としてスタート。三菱電機は、1921年に設立された、名古屋製作所は、1924年に三軒木製作所を前身として...

社会課題の解決に貢献。分工場として三軒木製作所の新設工場があり、現在建設中...

歴史振り返り次の100年へ。日本デジタルものづくり発信地。三菱電機のFAシステムの開発、生産拠点である名古屋製作所が、2024年9月1日に創業100周年を迎え、その歴史を振り返る...

1978年にエレクトロニクス事業の中核拠点として、1979年にエレクトロニクス事業の中核拠点として...

2021年には名古屋製作所敷地内に産業文化センターを建設し、同社の発展に大きく貢献した...

100周年を記念して、デジタル技術を活用した工場製造現場における生産性向上が盛んに呼ばれているが、名古屋製作所は2003年にデジタル工場として...

1998年にエレクトロニクス事業の中核拠点として、1999年にエレクトロニクス事業の中核拠点として...

海外需要の増加に対応するため、海外生産拠点を拡大し、海外生産にも取り組んできた...

デジタル工場を構築し、デジタル技術を活用した工場製造現場における生産性向上が盛んに呼ばれているが、名古屋製作所は2003年にデジタル工場として...

2003年にエレクトロニクス事業の中核拠点として、2004年にエレクトロニクス事業の中核拠点として...

自動化、作業支援を適用し生産性を向上。自動化、作業支援を適用し生産性を向上...

武市里枝社長。武市里枝社長は、1960年に設立し、25年に創立65周年を迎えることから、社名を「Washin」に変更...

azbil あすみる、アズビル。オートメーションで未来を描く。アズビル株式会社

ビジネスは戦争から競技へ 殴り合いから競い合いへ 新たなスタイルに進化。灯台。ビジネスは戦争から競技へ、殴り合いから競い合いへ、新たなスタイルに進化...

Electronics Solutions Company KANADEN 株式会社カナデン。1upは、クレスコの子会社として導入実績を有する...

Power Reliability 安心24ソリューション DC電源安定供給! PHOENIX CONTACT Power Reliability. DINレール用電源エントリーモデル ESSENTIAL2 Powerをクイントマンが4コマ漫画で紹介!



不可能を、可能にーそれが、SICKのセンサインテリジェンス。

SICK
Sensor Intelligence.

本社：東京都中央区本町1-32-2 ハーモニータワー13F TEL. 03-5309-2115
URL <https://www.sick.com/jp> e-mail support@sick.jp

Electronics Solutions Company

KANADEN

株式会社 カナデン



FA・製造業の最前線から生の声をお届け
<https://automation-news.jp/fa-interview/>

この技術が、世界を変える。
この技術で、未来を変える。
change the world. for the future.

HOKUYO

<https://www.hokuyo-aut.co.jp/>

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、FA採用事例に沖縄県那覇市第一牧志公設市場のモバイル検針の事例を公開

三菱電機は、FA採用事例として、那覇市第一牧志公設市場でのモバイル検針の事例を公開した。
沖縄県那覇市の第一牧志公設市場では、80数軒の各テナントが使用する電力量の検針作業に、無線通信を使用した「モバイル検針」を活用している。電力量計をのぞき込むことなくワイヤレスで電力量の情報を収集できるため、以前は4人がかりで午前中いっぱいかかっていた検針作業が、現在は2人でも1時間あれば終わるようになった事例を紹介している。

■三菱電機、CNCプレミアムサービスを提供開始

三菱電機は、同社の数値制御装置(CNC)を利用中のユーザーのみ利用できる専用WEBサービスの提供を開始した。
「マイマシン」は、保有する設備の情報(工作機械/CNC)を登録し、管理と閲覧が可能なサービス。設備情報を登録することでCNCの製品保証やサポートのための情報を簡単に管理でき、バッテリーの推奨更新時期をメールで知らせる。このほか、CNCの操作・保守資料、交換手順書の資料がダウンロードできる。

■富士電機、Storiesに「店舗統合コントローラ」開発秘話を公開

富士電機は、Storiesに、店舗のエネルギー管理ができる「店舗統合コントローラ」の開発者インタビューを公開した。
富士電機は、コンビニの冷蔵冷凍ショーケースのシェア40%を占めており、それに関連して店舗全体のエネルギーを管理できる「新・店舗統合コントローラ」を開発した。省エネ、脱炭素などコンビニ業界が抱える課題解決に向けたトータルソリューションとなり、開発者3人に話を聞いている。

■オムロン京都太陽の大谷さんと田中さんが京都府の「障害者優良勤労者知事表彰」を受賞

オムロンの特例子会社のオムロン京都太陽の社員・大谷智秋さんと田中幹人さんが、京都府における「障害者優良勤労者知事表彰」を受賞した。
大谷さんは、客先との窓口業務、生産計画立案・管理業務の担当として、全体最適を意識した丁寧な交渉で困難な調整も責任を持ち遂行。需要変動による負荷変動へのタイムリーな対応で2023年度の売上予算達成したことが評価された。
田中さんは、生産ラインに従事しながら人材育成を担い、自身の現場



未来のための。イーサネットの。METZ CONNECT We realize ideas. Rinsconnect 株式会社リンスコネク

管理経験を交えた効果的な指導により、新たな管理者の育成・成長に貢献。人材の育成を自身の目標に掲げ、周囲から都度相談を受け対応するなど信頼され頼りにされる存在であると評価された。

■アズビル、シンガポール環境評議会によるアワードでイノベーション&デザイン賞を受賞

アズビルは、シンガポール環境評議会が主催するSingapore Environmental Achievement Awards 2024で「イノベーション&デザイン賞」を受賞した。またシステム&マネジメント部門でも優秀賞を受賞した。
同アワードは、環境への優れた功績と自然環境の保護に対する優れた取り組みを示した組織を表彰するものであり、シンガポールおよびその周辺地域で最も権威ある環境賞の一つ。

■東芝、インフラ設備の保守点検向けに生成AIを使った作業支援の対話エージェント開発

東芝は、インフラ設備の保守点検やトラブル対応の作業手順を適切に提示できる対話エージェント技術を開発した。
生成AIがブームとなっているが、例えば作業手順などユーザーが知りたい適切な回答を引き出すには、具体的な質問を入力するなど質問の仕方にコツが必要となる。今回開発した技術は、従来技術である「応答生成AI」に、新たに開発した「応答評価AI」を加え、役割の異なる二つのAIを協調させることで曖昧な質問に対しても適切な回答ができるAIを開発。質問が難しい場合も問い返しをすることで質問が具体化されるように誘導して適切な回答ができるようにしている。
実証実験では、経験の浅い作業者の質問から正しい作業手順が得られる比率は、従来の30%から73.3%まで向上している。

■アドバンテック、ファンレスボックスコンピュータ「ARK」の導入事例を公開

アドバンテックは、マルチなI/Oを備えたファンレスBOXコンピュータARKの特長と導入事例をまとめた特設ページを公開した。
最新のファンレス組み込みボックスコンピュータ「ARK」シリーズの中でも特に注目すべき4つのモデル、ARK-2251、ARK-1250L、ARK-1221L、ARK-1125Cの特長と用途・導入事例について紹介している。

■昭電、BCP対策セミナーを開催

昭電は、対面&オンラインセミナー「サステナブル&レジリエントなBCP対策の実現へ～天変地異時代における防災DXやAIを活用した危機管理の取り組み～」を、秋葉原UDXにて9月12日に開催した。
冒頭、昭電常務執行役員事業推進部長加藤雅也氏が登壇し、日本が置かれている自然災害を中心とした危機管理と防災対策の重要性についてコメント。本セミナーを通じ、一次的な防災対策にとどまらず、複合的

な防災対策メーカーとして、スマート保安・保全のコンセプトを本セミナーにより共有することで、産業インフラのサステナブルとレジリエンスの強化に役立ててもらいたいという期待を述べた。

基調講演では、「激動の時代を乗り越える危機管理と災害対策」と題し、防災システム研究所長山村武彦氏が登壇。「事前対策」をキーワードに、危機管理と災害対策について自身の実体験を踏まえた大局的な解説を行った。続いて、「能登半島地震を機に考える、今取り組むべき企業防災対策について」を昭電地震対策システム部長村井和男氏、「雷被害が増える監視カメラの実情と対策について」を昭電雷対策システム部副部長鈴木淳一氏、「社会問題化している太陽光発電所のケーブル盗難の課題と対策について」を昭電金融営業課課長代理兼技術ソリューション推進室花井聡氏がそれぞれ紹介した。



また、セミナーでは「これからのフィジカルセキュリティ対策」として具体的なソリューションや事例を紹介。会場では地震対策、雷害対策、ケーブル盗難対策、監視・管理の各コーナーで実機・システムが紹介され、多くの参加者の注目を集めた。

■オブテックス・エフエー、工程改善集 全27種類の「用途・課題別/業界別」DL提供開始

オブテックス・エフエーは、WEBサイトで公開している「工程改善集」について、ダウンロードして閲覧できるバージョンを提供開始した。用途・課題別に15種類、業界別に12種類あり、品質管理や生産性向上、コスト削減のヒントが盛り込まれている。

■大崎電気工業とアクセルラボ、スマートホーム分野で戦略的パートナーシップ締結

大崎電気工業は、スマートホームサービスを展開するアクセルラボとスマートホームの普及・開発の推進に向けて戦略的パートナーシップを締結した。
パートナーシップでは、同社のスマートホームサービスに、アクセルラボのスマートホームサービス「SpaceCore(スペース・コア)」を連携する。マンションやアパートなどの管理会社向けに鍵管理業務や入居者コミュニケーションなど各種業務の効率化を実現し、入居者向けには生活の快適さと利便性を提供していく。

■RYODEN、RYODENラボに基板防湿コーティング塗布装置を導入&ANG塗布サービス開始

RYODENは、RYODENラボに米国actnano社製基板防湿コーティング「Advanced nanoGUARD」の塗布装置を国内で初めて導入し、顧客の基板へのANG塗布サービスを提供開始する。
ANGは、actnano社独自の自動車や民生用電子機器等向けの粘弾性ジェル状コーティング。コネクタ部やIC底面への塗布ができ、PCBAを100%カバーし、水分、湿度、結露、塩分などから電子機器を保護。また塗布後1分以内に自然乾燥し、塗布工程の時間短縮や工程設備の省スペース化も可能となる。

■カワダロボティクス、「NEXTAGE活用事例」特設ページを公開

カワダロボティクスは、双腕の協働ロボット「NEXTAGE」について、アプリケーションや活用事例をまとめた特設ページ「NEXTAGE活用事例」をオープンした。最新のNEXTAGE活用事例について、「梱包・包装」「ロード・アンロード/ピック・プレイス」「検査」「組立」の4つのジャンルの事例を動画で紹介している。期間は2025年3月31日まで。

■ナブテスコ、AGV/AMR向け駆動ユニットが清水建設のステージ足場移動台車に採用

ナブテスコ精機カンパニーが販売するAGV/AMR向け駆動ユニット「RVW」シリーズが、清水建設のステージ足場移動台車に採用された。
建築現場の足場は、作業場所が変わるたびに組み立てと解体が必要となるが、ステージ足場移動台車は、最大荷重3tに対応し、解体せずに作業フロア内を自由に移動できるもの。採用された駆動ユニットは、高精度・高剛性である精密減速機RVをメカナムホイール内に配置したインホイール構造の製品で、AGVやAMR本体の内部空間を有効活用でき、取り付けも簡単。全方向への移動ができ、最短で正確な位置決めを可能にする。

■チノー、東日本支店大宮営業所を移転

チノーは、10月1日付で東日本支店大宮営業所を移転する。新住所は〒330-0843埼玉県さいたま市大宮区吉敷町1-31-1明治安田生命大宮吉敷町ビル。電話番号は変更なしの048-643-4641。

セミナー・イベント

■三菱電機、10月3・4日にさいたま市で「三菱電機プレミアムフェア2024in東日本」開催

三菱電機は、10月3・4日にさいたま市の東日本メカトロソリューションセンターで「三菱電機プレミアムフェア2024in東日本」を開催する。
放電加工機「MXシリーズ」「MPシリーズ」「MV-Rシリーズ」「SV-Pシリーズ」「SH12」、レーザー加工機「GX-Fシリーズ」「HV2-Rシリーズ」、金属3Dプリンタ「AZシリーズ」を展示・見学できるほか、各種セミナーも実施する。

■立花エレテック、9月26日ウェビナー「TE社のセンサーはつなげる未来を創ります」開催

立花エレテックは、9月26日10時からウェビナー「TE社のセンサーはつなげる未来を創ります★特集★圧力センサーの立花ソリューションで理解を深めます」を開催する。ウェビナーでは、世界最大級のセンサー企業であるTE社にフォーカスし、圧力センサー、温度センサー、湿度センサーの製品を紹介。また圧力センサーのデモも予定している。

“制御盤 DX” 体験・検証ショールーム 2024年9月開設

リタール アプリケーションセンターは、設計段階から、加工、組み立て、配線にいたるまで制御盤の製造工程をデータでつなげて、お客様のプロジェクトの検証を行ないます。カスタマーイベントも随時開催。

◆お問い合わせ◆リタール株式会社 contact@rittal.co.jp

リタール アプリケーションセンター

Join. Apply. Grow.



Rittal Application Center
詳細はこちら



工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

国内

■東芝エネルギーシステムズ、神奈川県横浜市とインドで送変電機器の生産能力を増強

東芝エネルギーシステムズは、世界的な再生可能エネルギーの導入拡大などによる送変電機器の需要が拡大していることを受け、同機器の国内外の製造拠



点において増産投資を行う。浜川崎工場（神奈川県川崎市）とインドの東芝電力流通システム・インド社において、2024年度から2026年度までの3年間で総額約200億円の投資を行い、両拠点の生産能力をそれぞれ23年度比で約1.5倍に引き上げる。またTTDIでは24年度上期中に避雷器の製造設備を新設し、下期からTTDI避雷器の販売を開始する。

■ヤクルト本社、千葉県四街道市のちばリサーチパークに新工場

ヤクルト社は、生産子会社である千葉ヤクルト工場の新工場建設工事を開始した。

現在稼働中の千葉ヤクルト工場（千葉県四街道市）は、1969年に操業を開始した工場で、建物などの老朽化に加えて、敷地面積や建物構造などの制約もあることから、今回、ちばリサーチパークに新工場を建設する。

新工場では、顧客の多様なニーズに対応可能な生産体制を構築し、たCO₂排出量のさらなる削減、プラスチック資源循環の積極的な推進および水使用量削減技術の確立など、環境施策も推進する。敷地面積は、10万9707平方メートル。延床面積は、4万1104平方メートル。2024年7月着工、2027年春操業開始予定。

■仙波糖化工業、栃木県真岡市に新工場

仙波糖化工業は、栃木県真岡市寺内の真岡てらうち産業団地に新工場を建設する。土地の取得価格は約16億6600万円。土地面積は約6万6376平方メートル。2027年3月土地引き渡し予定。

■三協立山、富山県射水市の新湊東工場アルミ押出しラインを増築

三協立山は、富山県射水市の三協マテリアル社の新湊東工場を増築する。

今回の増築では、新規のアルミ押出しラインを増設し、中長期で成長が見込まれるEV市場に向けたアルミ材の供給能力増強を目的とし、2025年10月末の竣工を目指す。

投資予定額は約120億円。建築面積は増築分1万2862平方メートル（工場全体2万6566平方

メートル）。鉄骨造地上2階。2024年7月着工予定。2025年10月31日竣工予定。

■アマタホールディングス、福岡県北九州市の北九州製造所でシリコン再資源化設備を増設

アマタホールディングスは、アマタサーキュラーの北九州循環資源製造所に、シリコン切削屑を含むスラリをリサイクルするシリコン再資源化設備の3号機を増設した。今後は3機体制で製造量前年比120%を目指し、シリコンアイランド九州における半導体産業のサーキュラー化の加速を目指す。

■JR九州、福岡県北九州市に新車両基地を建設

JR九州は、小倉総合車両センター（福岡県北九州市小倉北区金田）の移転に伴い、新車両基地を建設する。

小倉総合車両センターは、同社の全ての在来線車両の解体検査、更新および改造工事などを行う車両基地として、1891年の開設から約130年が経過しており、施設・設備の老朽化に対応を必要があった。それに対し同社は、日本貨物鉄道（JR貨物）が保有している東小倉駅（貨物駅）の用地を取得し、小倉総合車両センターの機能を移転する。

新車両基地は、新技術の導入および効率的な検査ラインの構築によるコンパクトな車両基地とし、検査日数の短縮および省人化による効率的な車両検査を実現。太陽光エネルギーの活用およびZEB化の実現による環境への貢献を行う。

投資額は、約480億円。2031年度末竣工予定。

■赤城乳業、埼玉県大里郡にアイスクリームの新工場建設 2028年稼働予定

赤城乳業は、埼玉県大里郡寄居町用土にアイスクリームの新工場を建設する。

新工場は、①環境に配慮し地域と共存する工場、②未来に向けた新たな商品を展開、③商品の品質・安全性向上、④生産効率の向上、⑤省エネ、自動化を実現をコンセプトとする。完成後は、深谷と本庄千本さくら「5S」、寄居町新工場の3工場体制により生産能力は現在の1.5倍になる予定。

敷地面積は、3万7600平方メートル。2026年着工、2028年稼働予定。

■古河電気工業、平塚工場とフィリピン工場にデータセンタ向け水冷モジュール製造工場を新設

古河電気工業は、データセンタ向け放熱・冷却製品（ヒートシンク）の開発拠点である平塚工場（神奈川県平塚市）と、主力生産拠点であるフィリピン工場と同じLaguna工場団地内に、データセンタ向け水冷モジュールの製造工場を新設する。

近年は生成AI市場の著しい成長を背景に、データセンタの高発熱化に対応する高性能なヒートシンクへの要求が高まっている。従来は空冷方式が主流だったが、今後は流路を設けたコールドプレートを素子面に搭載して水などの液体を循環させて熱を回収する水冷



方式の適用割合が増加すると見られている。

それに対し同社は、2026年度の水冷方式の量産開始に向けて、平塚工場とフィリピンのLaguna工業団地内にデータセンタ向け水冷モジュールの製造工場を新設する。水冷モジュールの売上は、2026年度60億円、2027年度250億円を計画している。

■ウーケ、富山県下新川郡に無菌包装米飯の製造工場

ウーケは、富山県下新川郡入善町に無菌包装米飯製造の第4期工場を新設する。生産能力は年産4000万食で、今回の増設により設備生産能力を3割増の年間約1億6000万食に引き上げ、輸出については年間600万食を目指す。

地上2階鉄骨造りで、建築面積は2994平方メートル、延床面積は4243平方メートル。工期は、2024年7月10日～2025年3月17日、2026年4月量産開始予定。総工費は約60億円。

■浜松ホトニクス、静岡県浜松市の都田製作所の新棟が完成

浜松ホトニクスは、半導体レーザの生産能力を増強するために建設していた都田製作所（浜松市浜名区新都田）の新棟が完成した。

新棟では、事業所内に点在している半導体レーザの後工程を集約し、製造エリアを拡張して需要の拡大に対応。製造工程間の作業動線を最適化し、最新の製造装置や検査装置を導入し、工程の自動化や効率化を促進することで生産性向上を図っている。

また、耐震構造を採用し災害対策を強化するとともに、断熱構造や太陽光発電設備、高効率機器などの環境対策を積極的に取り入れた建物となっている。2024年11月稼働予定。

鉄骨造、地上4階。建築面積は1790平方メートル、延床面積は6720平方メートル。総工費は約41億円。

海外

■JCU、タイに表面処理薬品・装置製造の新工場

JCUの連結子会社のJCU (THAILAND) CO.,LTDは、タイ・チョンブリー県に表面処理薬品・装置の新工場を建設する。タイでは、プリント基板の需要が拡大していくと見込まれており、新工場の建設で既存のタイ工場の移転・集約を予定している。

総投資額は約33億円、敷地面積は、約2万2000平方メートル。2027年度竣工予定。

■共英製鋼、米国で製鋼工場の新設と圧延工場設備の一部改造

共英製鋼は、米国の連結子会社であるピントン・スチール社の製鋼工場の新設と圧延工場設備の一部を改造する。

同社は、北米事業の強化を目的とした設備投資を検討しており、ピントン・スチール社は設備老朽化が課題となっていた。今回、設備老朽化への対応と設備能力増強を目的として、製鋼工場の新設および圧延工場設備の一部改造を実施し、生産性の改善による大幅な

コスト削減および生産量・出荷量の拡大を図り、収益改善・安定化を目指す。

総投資額は、約230百万米ドル（約345億円）、2024年12月工事開始、2027年1月稼働開始。

■ニッポン、ベトナムに業務用プレミックス製品の工場

ニッポンは、ASEAN地域での業務用商品などの販売拡大を図るため、ベトナムに生産と販売を担う子会社を設立する。

同社は、1996年にR&D機能を持つ販売会社をタイに設立し、2008年には同国でプレミックス工場を竣工。2014年にはインドネシアに販売会社を設立し、2023年には同国でプレミックス工場を稼働し、順調に業容を拡大してきた。今回、ベトナムに新工場を設立することにより、ASEAN域内での供給体制を盤石なものとし、より一層の安定供給を図り、ベトナム国内での取り組みも強化していく。

新工場では各種業務用プレミックスを生産し、年間生産能力は4300トン。敷地面積は1万7767平方メートル。2027年工場稼働予定。

■ヤクルト本社、アメリカジョージア州ポートウ郡にアメリカヤクルト第2工場を建設

ヤクルト社は、100%子会社のアメリカヤクルトにおいて、「ヤクルト」「ヤクルトライト」を生産するアメリカヤクルト第2工場を建設する。

アメリカヤクルトの販売実績は、販売エリアの拡大とともに順調に伸長し、今後もさらなる伸長を見込んでおり、新工場の建設によって生産体制を強化するとともに、需要増加に対応していく。敷地面積は、約21万4000平方メートル。建築面積約は、2万平方メートル。延床面積約は、2万4000平方メートル。投資金額は、397百万米ドル（予定）。2026年9月生産開始予定。

■日本触媒、インドネシアで高吸水性樹脂(SAP)の製造設備を増設

日本触媒は、インドネシア子会社PT. NIPPON SHOKUBAI INDONESIA (NSI) で高吸水性樹脂の製造設備を増設する。

高吸水性樹脂(SAP)は、紙おむつの原料としてグローバルで需要が堅調に伸びており、特に人口増加が見込める地域においては、さらに旺盛な市場伸長が見込まれている。NSIでは、2023年4月にSAPの原料でもあるアクリル酸(AA)の製造設備を年間10万トン増強し、増強後は同24万トンまで生産能力を引き上げており、AAからSAPを一貫生産する強みを生かし、今回SAPの増設を行う。

また兵庫県姫路市のSAPプラントのうち、生産性の低い旧型設備については、今後、必要に応じて停止措置を行い、グループでの全体最適を図る。

設備投資額は、約1億1000万米ドル（約160億円）。2027年1月末完工、2027年7月商業運転開始。

Just in your products

Just Products

挑戦する盤メーカーをサポートする会社

コスト、生産性、脱炭素。それだけにどまらない、鋼バー加工の外注化のメリットをお伝えします。

株式会社ジャストプロダクツ

ボッシュ レックスロス の標準コンベア

TS 2plus (パレット式コンベア)



コンベア上で 240kg までのアキュムレーションが可能

高い停止位置精度 (±0.05mm)

パレット上での組み立て作業を可能とする高耐荷重



カタログ品のラインナップはこちらより→

製品に関するお問い合わせ先: 045-605-3028



VarioFlow plus (プラスチックチェーンコンベア)



自社製オリジナルコンベア

20年以上に渡る経験と実績

グローバルな供給網



ボッシュ・レックスロス株式会社

弊社はボッシュグループの産業機器テクノロジーを担っています。

rexroth

A Bosch Company